

三重県南部の『最後の砦』としての
役割を守るために。

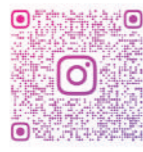


ロボットセンター
三重県南部地域初、
手術支援ロボットを2台導入

臨床検査室の国際規格
ISO15189認定を取得
三重県で初めて
外傷診療施設機能評価「S認定」取得



web site



Instagram
@ISE_JRC

 **日本赤十字社** 伊勢赤十字病院
Japanese Red Cross Society

〒516-8512 三重県伊勢市船江一丁目 471-2
TEL 0596-28-2171 FAX 0596-28-2965
発行月 / 2026年5月



伊勢赤十字病院

ロボットセンター

三重県南部地域初、
手術支援ロボットを2台導入

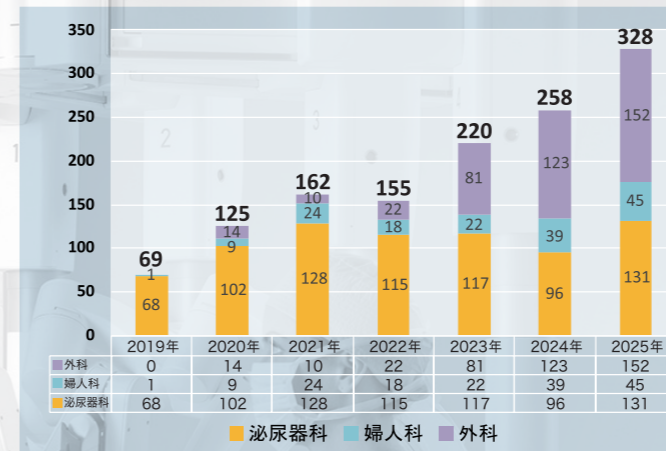
院内にロボットセンターを設立し、最先端医療の提供を推進。患者さんの身体的負担を減らし、手術待ち期間を短縮。

伊勢赤十字病院では、2019年より手術支援ロボット「da Vinci X」を導入し、高度で専門的な医療にも積極的に取り組んでいます。現在、外科、泌尿器科、産婦人科領域において低侵襲手術を実施しており、年間約300例の実績があります。

従来の開腹手術に比べて低侵襲手術は、合併症の軽減や、術後の予後改善の可能性、特に高齢者や合併症リスクを抱えた患者さんに対して効果的であり、患者さんの早期回復を助けます。また、三重県南部地方の病院として初めて手術支援ロボットを2台導入したことにより、従来より手術までの待機期間が大幅に短縮されました。

今後はリモートでの手術症例見学や指導ができる仕組みを導入する予定です。これにより、技術向上、人材育成の底上げにもつながることが見込まれます。

各科別ロボット支援手術件数の推移



経験豊富で高い技術を持つ医師が多数在籍

2019年の導入以来、ロボット支援手術による件数は年々増加しています。プロクター（手術指導医）、国際A級、国内A級の認定を取得した、経験豊富で高い技術を持つ医師が在籍しています。

プロクター在籍数 (2026年4月現在) 泌尿器科2名、消化器外科1名、呼吸器外科1名



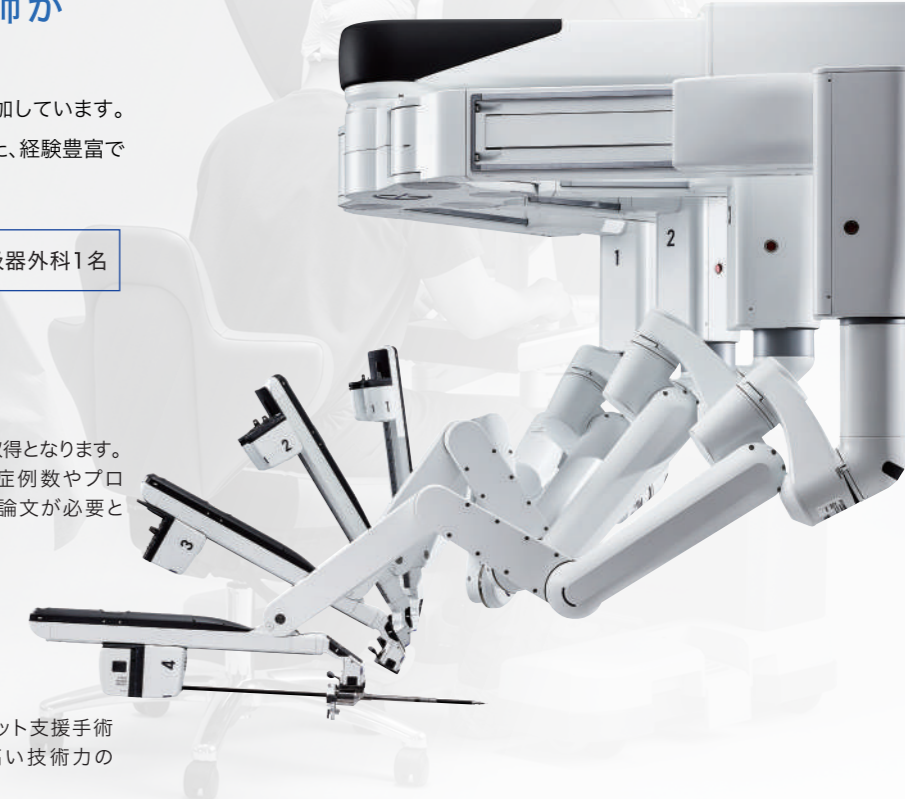
大西 毅尚 泌尿器科部長
日本ロボット外科学会
Robo-Doc Pilot 国際A級

全診療科において三重県内では初の取得となります。国際A級の取得には、豊富な執刀症例数やプロクターに加え、ロボット関連の英文論文が必要とされています。



田村 佳久 外科副部長
日本ロボット外科学会
Robo-Doc Pilot 国内A級

国内A級認定は、200件以上のロボット支援手術実績を持つ執刀医に与えられる高い技術力の証明です。

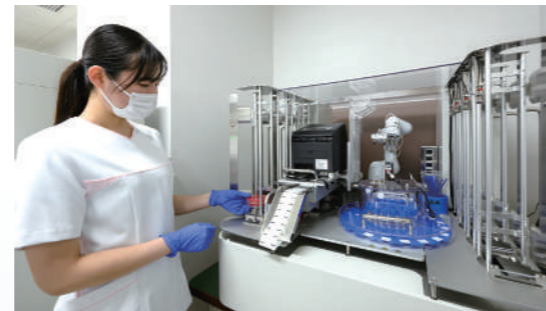


ISO 15189

臨床検査室の国際規格 ISO15189 認定を取得

検査結果の精度や信頼性を向上させ、より正確で迅速な診断を提供できるように。

臨床検査室が高い品質と信頼性を保つことを証明する国際規格「ISO15189」を取得しました。これにより、検査結果の精度や信頼性の高さが証明され、患者さんがより安心して検査を受けていただけると同時に、より迅速で正確な診断を提供できるようになりました。ISO15189の取得は、三重大学医学部附属病院に次ぐ三重県内では2例目となります。



外傷機能評価

三重県で初めて 外傷診療施設機能評価「S認定」取得

救命救急センターが日本外傷学会から高い評価を獲得。県南部の救急を断らない「最後の砦」として役割を果たす。

日本外傷学会が実施する外傷診療施設機能評価制度で、三重県で初めてS評価を取得しました。三重県南部唯一の救命救急センターとして、重傷外傷患者を24時間365日受け入れられる体制を維持し、断らない「最後の砦」としての役割を果たしています。

